

障がい者の移動ニーズと移動実態に関する基礎的分析 ～愛知県豊田市を対象として～

公益財団法人豊田都市交通研究所 正会員 ○河合 正吉
西堀 泰英
加知 範康
稲垣 具志

1. はじめに

これまで、障がい者のモビリティ確保に関しては、交通事業者や自治体等の取り組みが着実に進められ、その効果が上がってきている。一方で、その受益者となる障がい者の移動実態の把握が十分とはいえない。効率的で有効なモビリティ確保をしていくためには、障がい者の潜在的な移動ニーズや移動実態を、十分に考慮することが今後重要になると考えられる。本稿では、豊田市内の障がい者を対象に行ったアンケート調査を基に障がい者の交通実態把握の基本的アプローチとして、その全体像を概観することを目的とする。

2. アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表－1に示す。対象者は、豊田市障がい福祉課の協力を得て抽出した。本稿では、回収票の地域や障がい種別で分類したカテゴリー別の構成比を、母数全体の構成比に拡大した結果を用いて分析を行う。ただし、健常者との外出率の比較は、拡大しないサンプルで行った。回答者の自動車利用環境をみると、いつでも自分で運転できる割合が26%を占め、送迎を受けられる割合が半分以上を占める。

3. 障がい者の外出状況

(1) 特定の1週間の外出日数

障がい者の移動実態を把握するために、1週間の平均的外出日数により分析する。アンケートでは、ある1週間の日々の外出状況について、1人で外出、介助者と外出、外出なしを効いた、ここでは1週間全ての回答があった対象者に絞って分析した。回答者の1週間の平均的外出日数は、4.1日/週（うち介助付き1.9日/週）、外出なし2.9日/週である。1人で外出する割合は約55%であり、約半数が介助つきでの外出である。

キーワード 障害者、移動実態、アンケート調査
連絡先 〒471-0026 愛知県豊田市若宮町 1-1

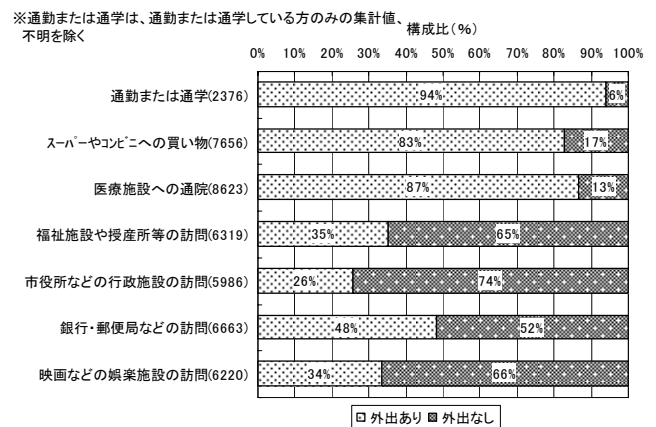
研究部 TEL0565-31-7543

表－1 アンケート調査の概要

調査対象	豊田市内に居住する障がい者約16千人のうち一部(身体障がい:等級1～3級、知的障がい:全て、精神障がい:等級1～2級)の約11千人から抽出した2,511人 抽出率24%
抽出方法	豊田市の地区区分(12地区)と障がい種別(7種)で分類したカテゴリー毎にランダムに抽出。ただし、対象者数の少ないカテゴリーにおいて配布数が20を下回る場合は、上限配布数を20として配布数を増やすよう調整した。
調査時期	平成21年3月
調査方法	郵送配布・郵送回収(一部電子ファイル)
回収状況	有効回答数1,301、有効回収率52%

(2) 最近1ヶ月の目的別外出状況

最近1ヶ月の目的別の外出有無について質問した結果、通勤通学、買い物、通院目的で外出する割合が高い。買い物や通院といった生活必需的な外出は多いが、それ以外の移動は比較的少ない状況にある。

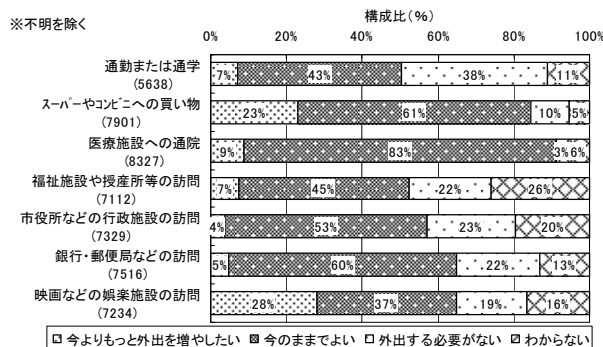


図－1 目的別1ヶ月の外出状況

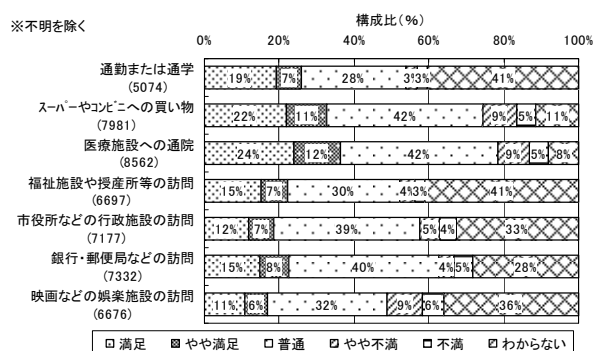
4. 障がい者の外出に対する意識

買い物や娯楽施設への外出を増やしたいと思う割合が比較的高い。図－1、2をみると、買い物は現状でも比較的外出頻度が高いが、さらに増やしたいというニーズが存在する。また、娯楽施設については現状では外出の割合が低く、他の目的と比較して外出ニーズが高いため、現在では満足に行くことができないレジャー施設に、より多く行きたいというニーズが存在すると考えられる。外出の満足度についてみると(図-3)、「わからない」の割合が高くばらついてい

るものの、「やや不満」「不満」を合計した値が、買い物や通院、娯楽施設の訪問で10%を超えている。特に娯楽施設の訪問では、「満足」「やや満足」の合計が最も低い。以上のことから、本調査における回答者の特徴として娯楽施設への訪問に対するニーズが高く、満足度が低い傾向があることが明らかになった。



図－2 目的別の外出ニーズ



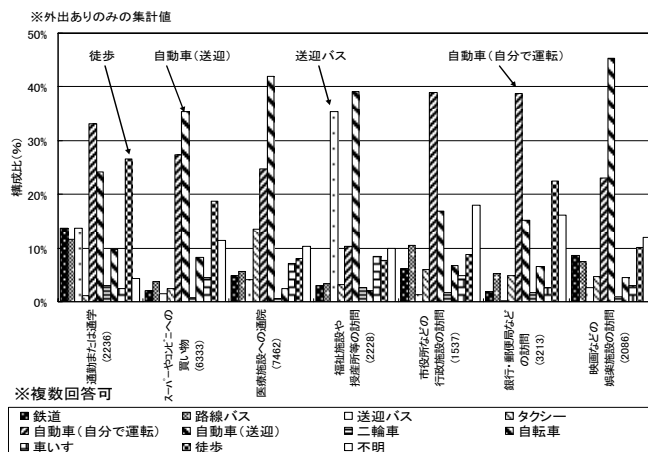
図－3 目的別の外出に対する満足度

5. 障がい者の利用交通手段

目的別の交通手段選択割合をみると(図－4)、全ての目的で自動車(自分で運転または送迎)の割合が30%を超えており、他の手段と比較して自動車への依存度は高い。通勤通学では徒歩の割合が他の目的の場合より高く、主に近距離の移動が行われていることが考えられる。また、行政施設や金融機関への訪問では自分で運転する割合が高いが、前述の外出のニーズでは増やしたい人が少なくなっている。

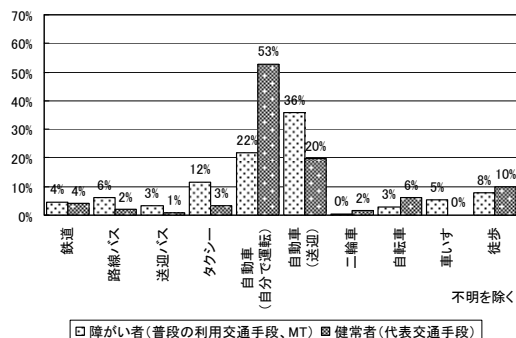
6. 障がい者と健常者の外出率の比較

ここでは、平成13年に実施された第4回中京PTデータを健常者の移動実態とみなして、障がい者と健常者の移動実態を比較する。集計対象地域は旧豊田市及び旧藤岡町とし、外出率(ある特定の1日の外出者の割合)により比較によって考察する。なお、ここでのデータ集計は、拡大しないサンプルで行っている。通



図－4 目的別の利用交通手段

院目的を例に交通手段選択状況をみると、健常者と比較して障がい者は自動車(自分で運転)の割合が低く、自動車(送迎)の割合が高い状況にある。単純な比較はできないものの、路線バスやタクシーの利用も健常者の場合より割合が高い。



※障がい者データは複数回答であるため、代表交通手段の考え方では現れにくい手段が多めに現れている可能性がある

図－5 障がい者と健常者の交通手段(通院)

7. 結論と今後の課題

本稿では、障がい者のモビリティ方策を考える第一歩として、障がい者の移動実態の全体像を把握した。その結果、障がい者の外出頻度が健常者と比較して少ないことや、移動を自動車に依存する傾向がみられること、娯楽施設への外出ニーズが高いが満足度が低いことなどが明らかとなった。

今後は、地域特性による影響、障がい種別々の移動実態、障がい者の移動能力による分類等についてより詳細な分析を行っていくことが必要である。

参考文献

・西堀泰英,河合正吉,三村泰広,橋本成仁:障がい者の交通実態と地域特性の関係についての一考察,土木計画学研究・講演集CD,Vol.140,(190),2009